



平成 18 年度島しょ農林水産総合センター大島事業所成果報告会

日 時： 平成 19 年 3 月 9 日 (金), 午後 3 時から 5 時

開催場所： クダッチ老人福祉館

1. 開会挨拶：東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所

所長 山川 正巳 (15:00 ~ 15:05)

2. 課題報告



1) 「キンメダイの初期生活史を解明する」

前田洋志 (15:10 ~ 15:30)

伊豆諸島海域はキンメダイの主要漁場になっており、東京都の漁業者ばかりではなく、静岡県や神奈川県等の漁業者も操業しています。このため、キンメダイ資源の持続的な利用を目的に、漁業者間の協議による自主的な資源管理が行われています。現在までの調査で、伊豆諸島での産卵および仔魚期の分布水深など初期生活史の一部が解明されてきました。しかし、より成長の進んだ稚魚や幼魚の分布生態や漁場加入機構については不明な点が多く、効果的な資源管理手法を考えるうえで大きな支障となっています。そこで、各種ネット調査や試験操業により、キンメダイの初期生活史を解明し資源管理に役立てます。



2) 「水産加工品に関する取り組み」

瀧口香穂 (15:30 ~ 15:50)

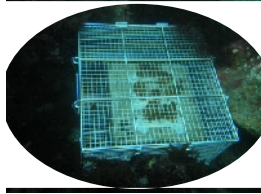
伊豆諸島の漁業は、離島という地理的な制約から、輸送コストに見合う高価格魚を主体とする漁業が営まれてきました。近年、輸入魚の増大や景気の低迷から、魚価安が続き、漁獲量も減少する中で、漁業経営は厳しくなっています。そこで、これまで利用価値の低かった水産物の活用方法を、地域の方々と連携して検討するとともに、魚食文化の普及を図り、漁業振興と地域社会への貢献を目的とする取組を行いました。また、島しょ農林水産業の活性化を目的に「明日葉・天草緊急プロジェクト」にも取り組みました。



3) 「黒潮の海況予測 (2007 年 1 ~ 6 月まで)」

東元俊光 (15:50 ~ 16:10)

2006 年 1 2 月に中央水産研究所で開催された「長期漁海況予報会議」において、2007 年前半の黒潮流路は、黒潮 (潮岬以東) は 33° N 付近を東進し、八丈島付近を通過後、蛇行しながら東へ流れるパターンが継続する。2 月に一時的に B 型、3 ~ 4 月に C 型、5 ~ 6 月に D 型傾向の流路パターンになると予測されました。現在、九州南東沖にある小蛇行が東に移動してくることにより、B,C,D 型の流型変化をもたらすと考えられており、その後の動向が気になるところです。



4) アントクメ藻場造成技術の開発

駒沢一郎 (16:10 ~ 16:30)

アントクメ (写真1) は伊豆諸島に分布するコンブ科の海藻で、サザエやアワビなど貝類の餌料として、あるいはイセエビ、魚類等の幼稚仔の隠れ場として重要な役割を果たしています。しかし、伊豆大島では平成10年以降、南部の波浮港地区を除いて生育が確認できなくなり、平成18年現在、幾分回復の兆しが認められるものの、平成10年以前と比較すると非常に低水準にあり、サザエなど貝類の漁獲量にも影響を及ぼしています。大島事業所では、スポアバックを用いた母藻投入 (写真2) および、配偶体を付着させた植毛板移植の2つの方法で失われたアントクメ藻場の復活に取り組んでいます。また、魚による食害を防ぐ技術の開発にも取り組みました。



5) 漁港でアワビを育てる

滝尾健二 (16:30 ~ 16:50)

伊豆諸島の漁業は、近年、天然資源の減少、漁業者の高齢化といった問題を抱えています。そこで、都では、資源管理や栽培漁業等の指導をおこなって、資源量や生産力の回復、増大を図っています。しかし、そこには厳しい漁獲制限があり、また、種苗放流にも労力やコストがかかります。さらに、高齢の漁業者にとって、外海での操業は非常に厳しい労働になっています。そこで、漁港を活用して、商品価値の高いアワビ類を低コスト低労働力で大量生産する方法を開発し、水産業の活性化、経営安定に役立てます。

6) 質疑応答・その他 (16:50 ~ 17:00)

東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所

Tel.04992-4-0381 Fax.04992-4-0383

ホームページ：<http://www.ifarc.metro.tokyo.jp/>

メモ